

中学校 保健体育科 学習指導案

指導者 重元 賢史

- 日 時 平成 30 年 12 月 10 日 (月) 第 5 限 13 : 20 ~ 14 : 10
- 場 所 グラウンド
- 学年・組 中学校 3 年生 男子 32 名 (後半グループ)
- 単 元 サッカー
- 目 標
1. 安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開することができる。
 2. 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
 3. サッカーに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、作戦などについての話し合いに貢献しよう、互いに助け合い教え合おうすること、健康・安全を確保することができる。

指導計画 (全 10 時間 : 本時 4/10)

第一次	オリエンテーション	1 時間
第二次	基本的技能の習得	3 時間
第三次	ハーフコートでの戦術学習	2 時間
第四次	チームでの課題練習	2 時間
第五次	まとめ(リーグ戦)	2 時間

授業について

サッカーは攻守の攻防が激しく変わるスポーツであり、他の球技種目と比べ主に足を中心としたボール操作の技能習得が必要となってくる。球技の中では得点が入る場面が生じにくく、ボールをパスをしたり、ドリブルをして、ゴールをめざし得点するためのプレイや判断力も必要である。また相手の動きに制限を加えたり、得点されそうな空間を守ったりすることや、味方のゴールにボールを入れさせないなどの守備力も求められている。空間をつくり出すためにはボールを持っていないときの動き(オフザボール)を中心にどこにどのように動いていいか、仲間との関係プレイをどのようにしていけばいいかなど理解・判断する力が培われる。第 1 学年及び第 2 学年の「ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開できるようにする」ことをねらいとした学習を受けて、第 3 学年においては「仲間と関係してゴール前の空間を使ったり、空間を作り出して攻防を展開できるようにすること」をねらいとした。しかし、実際の授業のゲームにおいてはボールに固まってプレーしている場面が多く見られる。またパスや相手が来たら慌てて無意味な方向へと蹴ってしまう場面も多く見られる。

今回のサッカーでは、パス・ドリブル・シュートの個人的技能の習得を目指すとともに、チームの戦術学習では主に数的有利の場면을学習の中に取り入れ、攻撃がしやすい状況を作り出し仲間と関係してゴール前の空間を使ったり、空間を作り出して攻防を展開できるようにしたい。そのために、本時では基本的なボール操作の中でも試合の中で最も多用されるインサイドキックを中心にゴールや相手に向かって正確なパス・シュート・ドリブルができるように指導をしていきたい。

本時の目標

1. 基本的なボール操作を活用して仲間と協力して、ゴールを奪う方法を考え、工夫してゴールを奪うことができる。
2. ボールを扱う楽しさや協力する喜びを味わうことができる。

本時の評価基準（観点／方法）

1. パス・シュート・ドリブルの基本的な技能を活用して空間を使ってゲームを行うことができる。
(運動の技能/活動観察)
2. フェアなプレイを守ろうし、サッカーに積極的に取り組もうとする。
(学びに向かう力、人間性/活動観察)

学習課程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
(導入) 出欠点呼 本時の説明 ウォーミングアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・集合 ・本時の学習内容を把握し、課題を確認して見通しを立てる ・準備運動 ・鬼ごっこ（速歩・スキップ・走る） 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察、見学生徒の確認、指導 ・課題を確認させる ・大きな声で丁寧に体操をさせる
(展開)		
発問①：試合の中で最も多用されるキックはなんだろう？		<ul style="list-style-type: none"> ・試合の中で多く使われるインサイドキックについて資料を見せながら説明をする。
グループごとにインサイドキックを使ったパスゲーム（インサイドキック限定）	<ul style="list-style-type: none"> ・インサイドキックを使ってグループでパスをつなぐ（4対1・3対2） ・チームでの簡易ゲーム（3対2） ・試合数 3試合 試合時間 6分 ・GKなしで行う（ミニゴール使用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・インサイドキックについてのポイントを意識できるように指導する。 ・インサイドキックに限定することにより、技能の定着を図る。
(まとめ) 本時の反省 次時の予告・片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の振り返り ・課題の確認 ・次時の内容を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を達成できたか ・気づきを共有できているか
準備物：サッカーボール ビブス ストップウォッチ 作戦ボード ホワイトボード		

実践上の留意点

1. 授業説明

今回のサッカーでは、パス・ドリブル・シュートの個人的技能の習得を目指すともに、チームの戦術学習では主に数的有利の場면을学習の中に取り入れ、攻撃がしやすい状況を作り出し仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、空間を作りだして攻防を展開できるようにしたい。また空間をつくりだすためにはボールを持っていないときの動き（オフザボール）を中心にどこにどのように動いていいか、仲間との連携プレイをどのようにしていけばいいかなど理解・判断する力が培われる。そのために、本時では基本的なボール操作の中でも試合の中で最も多用されるインサイドキックを中心にゴールや相手に向かって正確なパス・シュート・ドリブルができるように指導をしていきたい。

2. 研究協議より

- ・変化をつけたおにごっこが意欲的なウォーミングアップにつながった。
- ・インサイドキックを使って、パスをつなぐ際の適切な距離を考慮しゲームの中で、スペースを見つけ、空間を作り出すために必要なコートの大さや人数を工夫することが必要である。（今回の授業では30m×40mのコートで実施した）
- ・インサイドキックでは股関節を固定するため不自然な動きになり正確なキックが難しくなる生徒がいたのでキックの指導の仕方に工夫が必要である。